

平成29年度 宇治田原町子ども・子育て支援事業進捗状況の点検・評価シート

No. 1

事業名	時間外保育事業					
担当課	健康児童課（保育所）					
事業内容	保育所入所中で延長保育が必要な児童を、朝夕の延長保育時間中に保育する。 (時間) 朝 7:00~7:30、夕 18:30~19:00 (利用料) 月単位 朝 1,000 円、夕 2,000 円 日単位 朝 100 円、夕 200 円					
確保方策	町立保育所（1か所）					
進捗状況（計画・実績値）及び評価						
〈計画・実績値〉		実績は3月末現在の利用実人数				
単位：人		H27	H28	H29	H30	H31
計画値	量の見込み (A)	133	132	125	73	72
	確保の内容 (B)	133	132	125	73	72
実績値	申請児童数 (C)	67	79	74		
	認定児童数 (D)	67	79	74		
	過不足 (D) - (C)	0	0	0		
利用率 (A)		50.4%	59.8%	59.2%		
利用率 (B)		50.4%	59.8%	59.2%		
評価	評価指標 1	○	○	○		
	評価指標 2	○	○	○		
※利用率(A):量の見込みと認定児童数との比較 ((D) ÷ (A) ×100%) ※利用率(B):確保の内容と認定児童数との比較 ((D) ÷ (B) ×100%)  評価指標 1：計画通りに進められているか。 評価指標 2：保護者のニーズを満たしているか。 ○…実績が、「量の見込み」と「確保の内容」とともに下回っている。 △…実績が、「量の見込み」を上回っているが、「確保の内容」を下回っている。 ×…実績が、「量の見込み」と「確保の内容」とともに上回っている。						
成果・課題／自己評価						
○時間外保育（延長保育）に係る時間延長等について、特に保護者からの要望なし。 ○保護者のニーズ（就労、緊急的な事情等）に応じ、継続して事業実施を行う。						
評価（意見）			今後の方向性			
今後も継続して実施。			今後も継続して実施する。			

平成29年度 宇治田原町子ども・子育て支援事業進捗状況の点検・評価シート

No. 2

事業名	放課後児童健全育成事業
担当課	社会教育課
事業内容	○保護者が労働などにより昼間家庭にいない小学校に就学している児童を対象に、適切なあそび場や生活の場を提供し、その健全な育成を図る。  保育時間 平日：下校時～18：30 土曜日：7：30～18：30（長期休業期間も同じ）
確保方策	田原元気っ子クラブ・宇治田原元気っ子クラブ

進捗状況（計画・実績値）及び評価

（計画・実績値）

実績は3月末日現在の利用実人数

単位：人		H27	H28	H29	H30	H31	
計画値	量の見込み (A)	118	115	119	120	119	
	低学年	60	60	66	85	84	
	高学年	58	55	53	35	35	
	確保の内容 (B)	150	150	150	150	150	
実績値	申請児童数 (C)	126	127	103			
	低学年	田原	54	37	42		
		宇治田原	39	49	40		
		計	93	86	82		
	高学年	田原	16	23	10		
		宇治田原	17	18	11		
		計	33	41	21		
	認定児童数 (D)	126	127	103			
	低学年	田原	54	37	42		
		宇治田原	39	49	40		
		計	93	86	82		
	高学年	田原	16	23	10		
		宇治田原	17	18	11		
計		33	41	21			
	過不足 (D) - (C)	0	0	0			
	利用率 (A)	106.8%	110.4%	86.6%			
	利用率 (B)	84.0%	84.7%	68.7%			
評価	評価指標 1	○	○	○			
	評価指標 2	△	△	○			

※利用率 (A)：量の見込みと認定児童数との比較 ((D) ÷ (A) × 100%)

※利用率 (B)：確保の内容と認定児童数との比較 ((D) ÷ (B) × 100%)

評価指標 1：計画通りに進められているか。

評価指標 2：保護者のニーズを満たしているか。

○…実績が、「量の見込み」と「確保の内容」ともに下回っている。

△…実績が、「量の見込み」を上回っているが、「確保の内容」を下回っている。

×…実績が、「量の見込み」と「確保の内容」ともに上回っている。

成果・課題／自己評価

○老朽化していた田原児童育成施設を新築移転し、保護者のニーズに対応した。

○職員の人材確保・育成が課題

○田原/宇治田原スポーツ交流会を開催するなど、活動内容の充実を図っている。

評価（意見）	今後の方向性
今後も継続して実施。	田原児童育成施設は平成30年度より新施設にて事業実施・利用の少ない土曜日については、平成30年度より合同開設・職員の人材確保・育成を図っていく。

事業名	子育て短期支援事業
担当課	健康児童課
事業内容	保護者の疾病などの理由により家庭において養育を受けることが一時的に困難となった児童について、児童養護施設などにおいて一定期間必要な保護を行う。 ○対象児童：0歳～小学校卒業までの児童 ○利用期間：原則7日（6泊7日）以内
確保方策	「京都大和の家」（精華町）に委託

進捗状況（計画・実績値）及び評価

量の見込み、確保の内容ともにニーズ調査で必要とする回答が少なく、数字が出なかった。

〈計画・実績値〉

実績は3月末現在の利用実人数

単位：人		H27	H28	H29	H30	H31
計画値	量の見込み (A)	—	—	—	—	—
	確保の内容 (B)	—	—	—	—	—
実績値	申請児童数 (C)	42	9	9		
	認定児童数 (D)	42	9	9		
	過不足 (D) - (C)	0	0	0		
利用率 (A)		—	—	—	—	—
利用率 (B)		—	—	—	—	—
評価	評価指標 1	○	○	○		
	評価指標 2	—	—	—	—	—

※利用率(A):量の見込みと認定児童数との比較 ((D) ÷ (A) × 100%)

※利用率(B):確保の内容と認定児童数との比較 ((D) ÷ (B) × 100%)

※計画値に対する実績値を○×で判定

評価指標 1：計画通りに進められているか。

評価指標 2：確保の内容が保護者のニーズを満たしているか。

量の見込み、確保内容ともにニーズ調査で必要とする回答が少なく、数字が出なかった。よって、量の見込み、確保の内容に対する「評価指標 2」出の評価はできない。

成果・課題／自己評価

- 平成29年度の利用は延べ9人（1世帯、児童3人、3日間利用）
- 支援の必要な家庭にとって、有効利用ができた。支援の必要な方に、適切に情報が届くよう、ホームページ等を活用し、事業内容の周知を図る。

評価（意見）	今後の方向性
今後も継続して実施。	今後も継続して実施し、制度の周知に努める。

事業名	地域子育て支援拠点事業
担当課	健康児童課（地域子育て支援センター）
事業内容	乳幼児及びその保護者が相互の交流を行う場所を開設し、子育てについての相談、情報の提供、助言その他の援助を行う。 ○子育てサービス利用支援事業 ○パパの子育て応援事業 ○地域子育て支援事業 ○家庭支援カウンセリング ○地域で子育て「つどいの広場」
確保方策	地域子育て支援センター（1か所）

進捗状況（計画・実績値）及び評価

〈計画・実績値〉 実績は3月末現在の利用実人数

単位：人		H27	H28	H29	H30	H31
計画値	量の見込み (A)	3,948	3,912	3,648	3,564	3,516
	確保の内容 (B)	4,955	4,955	4,955	4,955	4,955
実績値	利用者数 (C)	3,035	2,622	2,243		
利用率 (A)		76.9%	67.0%	61.5%		
利用率 (B)		61.3%	52.9%	45.3%		
評価	評価指標 1	○	○	○		
	評価指標 2	○	○	○		

※利用率(A):量の見込みと利用者数との比較 ((C) ÷ (A) × 100%)

※利用率(B):確保の内容と利用者数との比較 ((C) ÷ (B) × 100%)

評価指標 1：計画通りに進められているか。

評価指標 2：保護者のニーズを満たしているか。

○…実績が、「量の見込み」と「確保の内容」とともに下回っている。

△…実績が、「量の見込み」を上回っているが、「確保の内容」を下回っている。

×…実績が、「量の見込み」と「確保の内容」とともに上回っている。

成果・課題／自己評価

- パパの子育て応援事業：「男性が行きにくい」「土曜は仕事」等、パパの参加が少ない。
- カウンセリング：1対1の相談はハードルが高い様子。今後は、GWの手法も取り入れる。
- つどいの広場：安全面・衛生面から支援センターの移設に伴い、センターでの開催とした。
- 支援センター事業：移設に伴い、周知のための事業が多数となったが、1回あたりの参加者は減少。周知はできてきたので今後は新しい人を呼べる内容を行っていく。

評価（意見）	今後の方向性
利用者ニーズを把握するとともに、対象者にあわせた事業の検討を行い、継続して実施。	「防災ごはん」などの企画では男性も多く参加いただいたので、今後は男性が活躍できる場を増やしていく。

事業名	一時預かり事業					
担当課	健康児童課（保育所）					
事業内容	保育所において、保護者の就労形態の多様化、急病や育児疲れ解消のため、一時的に保育が必要となる生後90日から就学前までの児童を預かる。また、里帰り出産等で一時的に居住している就学前児童も対象とする。 ・利用実績（延べ人数）の内訳 保護者の就労等による利用 保護者の病気等緊急利用 保護者のリフレッシュ等上記 以外の理由による利用 ・利用料 3歳未満 1日 2,000円 3歳以上 1日 1,800円 別途給食代 300円					
確保方策	町立保育所（1か所）					
進捗状況（計画・実績値）及び評価						
〈計画・実績値〉		実績は3月末現在の延べ利用人数				
単位：人		H27	H28	H29	H30	H31
計画値	量の見込み（A）	439	435	405	1,000	1,000
	確保の内容（B）	1,054	1,054	1,054	1,054	1,054
実績値	申請児童数（C）	424	755	952		
	認定児童数（D）	424	755	952		
	過不足（D）－（C）	0	0	0		
利用率（A）		96.6%	173.6%	235.1%		
利用率（B）		40.2%	71.6%	90.3%		
評価	評価指標1	○	○	○		
	評価指標2	○	△	△		
※利用率(A):量の見込みと認定児童数との比較（(D) ÷ (A) × 100%） ※利用率(B):確保の内容と認定児童数との比較（(D) ÷ (B) × 100%） 評価指標1：計画通りに進められているか。 評価指標2：保護者のニーズを満たしているか。 ○…実績が、「量の見込み」と「確保の内容」とともに下回っている。 △…実績が、「量の見込み」を上回っているが、「確保の内容」を下回っている。 ×…実績が、「量の見込み」と「確保の内容」とともに上回っている。						
成果・課題／自己評価						
○利用希望は近年増加傾向にあり、平成29年度は保育所施設内に一時保育施設を新設し、10月の開所以降は利用者が増大した。（H29.4-9月：278人。H29.10-30.3月：674人） ○保育所内の一室での開設であった時より利用しやすくなり、新たな利用ニーズが発生したと考えられる。 ○虐待未然防止の観点からも重要な事業であり、適正な保育体制を維持するため、保育所と同様に保育士の確保が改題である。						
評価（意見）			今後の方向性			
ニーズの高い事業であり、十分に対応できるよう更なる保育体制の充実に努め、継続して実施。			保護者のニーズに対応した保育体制を整えるため、保育士の確保に努める。			

事業名	病児・病後児保育事業
担当課	健康児童課・保育所
事業内容	保護者の就労等により家庭での保育が困難な場合において、病院・保育所等において、病気の児童を一時的に保育するほか、保育中に体調不良となった児童への緊急対応を行う。
確保方策	○体調不良児型：保育所内の病児保育室 ○病児・病後児型：田辺中央病院 やすらぎ保育園

進捗状況（計画・実績値）及び評価

〈計画・実績値〉実績は3月末現在の体調不良児型延べ利用人数（平成28年10月より事業開始）

単位：人		H27	H28	H29	H30	H31
計画値	量の見込み（A）	712	706	672	653	645
	確保の内容（B）	712	706	672	653	645
実績値	利用者数（C）	—	187	458		
利用率（A）		—	26.5%	68.2%		
利用率（B）		—	26.5%	68.2%		
評価	評価指標1	—	○	○		
	評価指標2	—	○	○		

量の見込み、確保の内容、利用者数については、体調不良児型。

※利用率(A):量の見込みと利用者数との比較 ((C) ÷ (A) × 100%)

※利用率(B):確保の内容と利用者数との比較 ((C) ÷ (B) × 100%)

体調不良児型（保育所内の在園児が保育中に体調不良となった場合）の計画及び実績とし、病児・病後児（医療機関の病児保育園利用）については、量の見込み等を算出していない。

（病児・病後児型の実利用者数：平成28年度 8人、平成29年度 2人）

評価指標1：計画通りに進められているか。

評価指標2：保護者のニーズを満たしているか。

○…実績が、「量の見込み」と「確保の内容」とともに下回っている。

△…実績が、「量の見込み」を上回っているが、「確保の内容」を下回っている。

×…実績が、「量の見込み」と「確保の内容」とともに上回っている。

成果・課題／自己評価

- 「病児・病後児対応型」・・・京田辺市・井手町との広域連携により、京田辺市の「田辺中央病院」にて実施。利用は減少していることから、さらに周知が必要。
- 「体調不良型」・・・保育所内の専用スペースで看護師を配置し平成28年10月より実施。看護師のみならず、保育士との連携を密にすることにより安心安全な保育体制を確保できた。

評価（意見）	今後の方向性
今後も継続して実施。	病児・病後児対応型については、H30より宇治徳洲会病院での利用が可能となる。改めて周知する。 体調不良型について、安心かつ安全な保育体制を確保するため、継続して実施する。

事業名	ファミリー・サポート・センター事業
担当課	健康児童課（地域子育て支援センター）
事業内容	<p>育児を手伝いたい方（まかせてたい）と、手助けをしてほしい方（おねがいたい）の相互支援を行い、子育てのサポートを行う。</p> <p>〔登録状況〕 会員数 66名                  （内、まかせてたい 18名、おねがいたい 43名、両方会員 5名）</p> <p>〔利用内容〕 預かり保育 37件、送迎 46件</p>
確保方策	ファミリー・サポート・センター（1か所）

進捗状況（計画・実績値）及び評価

子ども・子育て計画策定の量の見込みを定める際に参照した平成24年度の利用実績はなく、またニーズ調査においても利用希望はごくわずかであり、見込み量を算出することができなかった。

〈計画・実績値〉 実績は3月末現在の利用実人数

単位：人		H27	H28	H29	H30	H31
計画値	量の見込み (A)	—	—	—	—	—
	確保の内容 (B)	—	—	—	—	—
実績値	実施件数 (C)	45	48	37		
利用率 (A)		—	—	—	—	—
評価	評価指標 1	○	○	○		
	評価指標 2	—	—	—	—	—

※利用率(A):量の見込みと実施件数との比較 ((C) ÷ (A) ×100%)

※計画値に対する実績値を○×で判定

評価指標 1：計画通りに進められているか。

評価指標 2：確保の内容が保護者のニーズを満たしているか。

量の見込み、確保内容ともにニーズ調査で必要とする回答が少なく、数字が出なかった。よって、量の見込み、確保の内容に対する「評価指標 2」出の評価はできない。

成果・課題／自己評価

○育児の手伝いをしてほしい人（おねがいたい）のニーズは高まっているが、育児を手伝いたい人（まかせてたい）が不足している。

○登録されていても、実際に活動できる方が減っていることと、活動できる方でも可能な時間・場所等、うまくマッチングさせることが難しい。援助会員を増やしていくことが課題。

評価（意見）	今後の方向性
やりたいと思う方が増えるような仕掛け（講座など）が必要。継続して実施。	養成講座や周知活動に力を入れていく。

事業名	妊婦健診事業					
担当課	健康児童課					
事業内容	妊婦を対象に、安心して妊娠・出産を迎えるため、健康診査に係る費用の一部を助成する。 ○母子手帳交付時に、14回分の妊婦検査受診券綴りを交付 ○委託医療機関以外での受診の場合は、検査費用の一部を助成					
確保方策	委託医療機関に委託して実施					
進捗状況（計画・実績値）及び評価						
当該事業は、ニーズ調査項目外であったため、現状から予測される数値を見込みとし定めた。 〈計画・実績値〉 実績は3月末現在の利用実人数						
単位：人		H27	H28	H29	H30	H31
計画値	見込み(A)	109	107	104	101	99
実績値	実施件数(B)	67	51	57		
利用率(A)		61.5%	47.7%	54.8%		
評価	評価指標1	○	○	○		
	評価指標2	—	—	—		
※見込み：ニーズ調査の項目になかったため、予測される数字 ※利用率(A):見込みと実施件数との比較 ((B) ÷ (A) × 100%)						
※計画値に対する実績値を○×で判定 評価指標1：計画通りに進められているか。 評価指標2：確保の内容が保護者のニーズを満たしているか。  ニーズ調査項目外であったため、量の見込み、確保の内容を定めていないことから、「評価指標2」の評価はできない。						
成果・課題／自己評価						
○平成29年度の妊婦健診助成対象者は57人。 ○国が提示している望ましい公費負担の検診回数に準じて14回分の妊婦健診の費用負担の軽減を図り、安心して妊娠・出産できる環境づくりに取り組んだ。						
評価（意見）			今後の方向性			
今後も継続して実施。			今後も継続して実施する。			

事業名	乳児家庭全戸訪問事業																																													
担当課	健康児童課																																													
事業内容	<p>生後4ヶ月までの乳児のいる全ての家庭を、保健師や助産師が訪問し、子育て支援に関する専門的な相談・アドバイスをを行い、情報提供や養育環境などの把握を行う。</p> <p>ハイリスクな世帯については、医療機関と情報共有し、妊娠から出産子育て期にわたり、連携した支援を行う。</p>																																													
確保方策	保健師・助産師による訪問																																													
進捗状況（計画・実績値）及び評価																																														
<p>当該事業は、ニーズ調査項目外であったため、現状から予測される数値を見込みとし定めた。</p> <p>〈計画・実績値〉 実績は3月末現在の利用実人数</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2">単位：人</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>H31</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画値</td> <td>量の見込み（A）</td> <td style="text-align: center;">58</td> <td style="text-align: center;">56</td> <td style="text-align: center;">56</td> <td style="text-align: center;">54</td> <td style="text-align: center;">53</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>実施件数（B）</td> <td style="text-align: center;">51</td> <td style="text-align: center;">52</td> <td style="text-align: center;">44</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">利用率（A）</td> <td style="text-align: center;">87.9%</td> <td style="text-align: center;">92.9%</td> <td style="text-align: center;">78.6%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">評価</td> <td>評価指標1</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>評価指標2</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※見込み：ニーズ調査の項目になかったため、予測される数字                  ※利用率(A):量の見込みと実施件数との比較（(B) ÷ (A) × 100%）</p> <p>※計画値に対する実績値を○×で判定                  評価指標1：計画通りに進められているか。                  評価指標2：確保の内容が保護者のニーズを満たしているか。</p> <p>ニーズ調査項目外であったため、量の見込み、確保の内容を定めていないことから、「評価指標2」の評価はできない。</p>						単位：人		H27	H28	H29	H30	H31	計画値	量の見込み（A）	58	56	56	54	53	実績値	実施件数（B）	51	52	44			利用率（A）		87.9%	92.9%	78.6%			評価	評価指標1	○	○	○			評価指標2	—	—	—		
単位：人		H27	H28	H29	H30	H31																																								
計画値	量の見込み（A）	58	56	56	54	53																																								
実績値	実施件数（B）	51	52	44																																										
利用率（A）		87.9%	92.9%	78.6%																																										
評価	評価指標1	○	○	○																																										
	評価指標2	—	—	—																																										
成果・課題／自己評価																																														
<p>○母の不安が高く適切な時期に訪問できず、来初対応等別の手段にて支援を実施した事例があったが、全件の状況把握に努めている。</p> <p>○子育て支援センターの保健師が母子手帳の交付・妊婦の面談を行うこととなり、一貫したスクリーニングができるようになった。地域担当保健師が妊娠期間中に妊婦と自然に出会えるよう、機会作りを意識的に行った。</p>																																														
評価（意見）			今後の方向性																																											
漏れがないことを確認の上、継続して実施。			今後も継続して実施する。																																											

事業名	養育支援訪問事業
担当課	健康児童課
事業内容	保護者の育児ストレスや未熟児・多胎児などを養育している家庭など、養育支援が特に必要な家庭に対して、その居宅を訪問し、養育に関する指導・助言などを行うことにより、当該家庭の適切な養育の実施を確保する。 ハイリスクな世帯については、医療機関と健康児童課が情報共有し、妊娠から出産子育て期にわたり連携して支援を行う。また、不安の高い妊婦に対しては、助産師による訪問を行い、出産・育児に対する不安解消に努め、出産後の継続的な支援も実施する。
確保方策	保健師・助産師による訪問

進捗状況（計画・実績値）及び評価

当該事業は、ニーズ調査項目外であったため、現状から予測される数値を見込みとし定めた。

〈計画・実績値〉

実績は3月末現在の利用実人数

単位：人		H27	H28	H29	H30	H31
計画値	量の見込み (A)	101	101	101	101	101
実績値	実施件数 (B)	90	30	12		
利用率 (A)		89.1%	29.7%	11.9%		
評価	評価指標 1	○	○	○		
	評価指標 2	—	—	—		

※見込み：ニーズ調査の項目になかったため、予測される数字

※利用率(A):量の見込みと実施件数との比較 ((B) ÷ (A) × 100%)

※計画値に対する実績値を○×で判定

評価指標 1：計画通りに進められているか。

評価指標 2：確保の内容が保護者のニーズを満たしているか。

ニーズ調査項目外であったため、量の見込み、確保の内容を定めていないことから、「評価指標 2」の評価はできない。

成果・課題／自己評価

○乳児家庭全戸訪問事業や乳幼児健康診査事業で把握した支援の必要な世帯に対し、保健師が育児支援を行った。

○不安の高い妊婦に対しては助産師による訪問を行い、出産・育児に不安解消に努め、出産後の継続的な支援も行っており、児童虐待の未然防止にも繋がっている。

評価（意見）	今後の方向性
今後も継続して実施。	今後も継続して実施する。

事業名	利用者支援事業					
担当課	健康児童課（地域子育て支援センター）					
事業内容	子ども・子育てに係る幅広い情報収集や提供を行い、教育・保育施設等の利用にあたっての助言・利用支援を行う。また、地域子育て支援センター事業と連携し、関係機関との連携・調整や地域の子育て資源の育成など、一体的に運営し、子育て家庭支援の機能強化を図る。  相談件数：65件（発達・生活・制度・病気・仕事・家事・保育・教育など）					
確保方策	子育て支援センターで利用者支援を実施					
進捗状況（計画・実績値）及び評価						
当該事業は、ニーズ調査項目外であったため、現状から予測される数値を見込みとし定めた。 〈計画・実績値〉 実績は3月末現在の設置箇所						
単位：箇所		H27	H28	H29	H30	H31
計画値	量の見込み（A）	1	1	1	1	1
実績値	実施件数（B）	1	1	1		
利用率（A）		100.0%	100.0%	100.0%		
評価	評価指標1	○	○	○		
	評価指標2	—	—	—		
※見込み：ニーズ調査の項目になかったため、予測される数字 ※利用率(A):量の見込みと実施件数との比較（(B) ÷ (A) × 100%）						
※計画値に対する実績値を○×で判定 評価指標1：計画通りに進められているか。 評価指標2：確保の内容が保護者のニーズを満たしているか。  ニーズ調査項目外であったため、量の見込み、確保の内容を定めていないことから、「評価指標2」の評価はできない。						
成果・課題／自己評価						
○新規の相談は少なく、支援センターに来所され、遊んでいる中での相談が多い。 ○相談内容は就園、一時保育のことが多いため、幼稚園・保育所との連携が必要。 ○地域子育て支援センターに保健師を配置し、「母子保健型」として事業展開した。 ○保健センターと連携し、子育て世代地域包括支援センターとしての取り組みの充実を図る。						
評価（意見）			今後の方向性			
一番敷居の低い最初の相談窓口となるよう、今後も継続して実施。			町内外の幼稚園との連携を図り、情報収集に努める。			

